



「たび人われや平戸よく見む」吉井 勇

吉井勇は明治四十年の夏、与謝野鉄幹、北原白秋、木下杢太郎、平野萬里と共に初めて平戸を訪れた。紀行文「五人づれ」によれば、亀岡神社やオランダ堀、幸橋等にも出かけたらしい。

この「五足の靴」以来五十年目の昭和三十一年、平戸再訪。翌三十二年、同市川内峠に九州で七番目となる吉井勇歌碑が建立された。碑には次の一首が刻まれている。

山きよく海うるはしとたたへつつ

たび人われや平戸よく見む

勇は長崎をこよなく愛し、二百首を超える長崎の歌を詠んだ。県内各所に歌碑がある。

詩集に、「五足の靴」の帰京後発行した『酒ほがひ』などがある。随筆「長崎見聞抄」では、精霊流しや多良岳の記述なども散見される。